

# 救 急 部

## 1 構 成 員

	平成18年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	1人（ 1人）
助手（うち病院籍）	2人（ 2人）
医員	4人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（ 0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	10人

## 2 教員の異動状況

- 青木 克憲（部長）（H14. 11. 16～現職）
- 仁科 雅良（副部長）（H11. 4. 1～H17. 4. 30）
- 吉野 篤人（副部長）（H17. 6. 1～現職）
- 山田 信幸（講師）（H17. 7. 1～現職）
- 佐藤 潤（助手）（H16. 9. 1～現職）
- 間遠 文貴（助手）（H16. 9. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成17年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	3.99
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1編（ 1編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	3編（ 2編）
そのインパクトファクターの合計	2.00

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Matsuda H, Suda T, Sato J, Nagata T, Koide Y, Chida K, Nakamura H:  $\alpha$ -Galactosylceramide, a Ligand of Natural Killer T Cells, Inhibits Allergic Airway Inflammation. Am J Respir Mol Cell Biol 33 (1): 22-31, 2005

インパクトファクターの小計 [3.99]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 間遠文貴, 俵原 敬, 三上 直, 野村紀之, 小田切圭一, 齋藤希人, 竹内泰代, 林 秀晴, 寺田 肇, 佐藤 洋, 上原明彦, 倉田千弘: 運動負荷Thallium-201心筋Single Photon Emission Computed Tomography上の肺野および右室の取り込みによる冠動脈疾患重症度診断の有用性. Journal of Cardiology 2005; 46: 131-140.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 横村光司, 千田金吾, 須田隆文, 黒石重城, 宮崎洋生, 水嶋久乃, 榎本紀之, 藤澤朋幸, 三輪清一, 中野秀樹, 鈴木研一郎, 佐藤 潤: 間質性肺炎の発症を契機に診断された先天性気管狭窄症の成人例. 日本呼吸器学会誌43(11): 673-677, 2005
2. Fumitaka M, Hideharu H, Hajime T, Hiroshi S, Hideki K, Tsuyoshi U, Katsunori S, Masayoshi Matoh, F Hayashi H Terada H Astoh H Katoh H Urushida T Shiraki K Asai M A Harumi S, Yasuo T: Usefulness of Delayed Enhancement Magnetic Resonance Imaging Sakahara H Takehara Y for Detecting Cardiac Rupture Caused by Small Myocardial Infarction in a Case of Cardiac Tamponade. Circulation Journal 2005; 69: 1556-1559.
3. 間遠文貴, 青木克憲, 仁科雅良, 吉野篤人, 金岡 繁, 佐藤 潤, 鈴木浩一: 集中治療により救命しえた悪性症候群の1例. 日本救急医学会誌 2005; 16: 255-60

インパクトファクターの小計 [2.00]

4 特許等の出願状況

	平成17年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成17年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)

(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件 (0万円)

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	1件	

### (1) 国際学会等開催・参加

#### 5) 一般発表

##### ポスター発表

Kuroishi S, Sato J, Suda T, Chida K: The Study of Clinical Effect of Neutrophil Elastase Inhibitor, Sivelestat (ONO-5046) on Acute Lung Injury / Acute Respiratory Distress Syndrome. American Thoracic Society. 2005.05, San Diego, USA

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成17年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成17年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 緊急被ばく医療救護体制の構築について

平成17年6月16日に、東名高速事故でトラックが横転し道路上に放射性物質が流出したという設定で、緊急被ばく医療救護訓練を行った。現場での汚染拡大防止措置、病院の養生、汚染管理区

域の設置，スタッフの防護装備，サーバイメータによる汚染のチェック，創部の除染処置，関係者や受付に来た周辺住民のケアなどのマニュアル化について検討を続ける。

## 2. 救急医療体制の評価

病院前医療における救命リレーを適確に進めるために，救急隊員のメディカルコントロール，搬送症例の事後検証，浜松方式輪番制病院群における救命救急センターの役割，浜松市・浜北市全救急隊員による浜松医科大学救急部門の全体的評価などの検討を行った。全国2番目の面積となった新浜松市の広域救急医療体制のあり方が今後の課題である。

## 3. 新臨床研修制度における研修医の評価と救急部スタッフに対する逆評価

新臨床研修制度における58名の研修医について，救急医療研修の到達度評価，救急部スタッフによる研修医の評価とフィードバック，研修医による救急部スタッフの逆評価を行った。救急医療の現場は教育的な環境であり，教員の教育技法を高める必要がある。分かりやすい指導，確実に技術を習得できる指導，タイミングを見て適切な形成的な評価ができることが必須である。診察，診断，治療の各プロセスにおいて教育効果を逃さない優れた指導医の養成プログラムを検討している。